

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	基礎看護技術演習の事前学習にオリジナルの視聴覚教材を活用することの評価				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	小原 陽子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	小原 陽子

講演題目	
基礎看護技術演習の事前学習にオリジナルの視聴覚教材を活用することの評価	
研究の目的、成果及び今後の展望	
<p>【背景】 視聴覚教材の学習効果については幅広く報告されている（真嶋, 2006 ; 山本, 2007 ; 相原, 2009）。看護の実践的な技術習得においては、文章による手順の説明だけでは十分な理解が困難であり、視覚的に動作や操作を確認できる、視聴覚教材が有効であることが示されている。特に繰り返し再生可能な視聴覚教材は、学生が自分のペースで理解を深めることを支援し、学習効果を高められると考えられている。</p> <p>【研究目的】 本研究の目的は、基礎看護技術の事前学習に作成した、実習室や使用物品に即したオリジナルの視聴覚教材の活用について、学生による評価を明らかにすることである。</p> <p>【成果】 検索は、医学中央雑誌を用いて文献レビューを行った結果、視聴覚教材の活用は、学生が演習手順を具体的にイメージ化し、ロールモデルの形成を促進する可能性が示唆された。また、教材に加えて書き込み式の自己学習課題を併用することで、学生の主体的かつ効果的な自己学習支援をすることが期待される。</p> <p>【今後の展望】 本学が作成したオリジナルの視聴覚教材は、実際の演習環境と同様の物品・環境を用いており、一般教材とは異なる特色がある。しかし、現時点ではこれらの教材に関して、学生からの評価は十分に得られていない。今後の課題としては、教材に対する学生の評価データを体系的に収集・分析するとともに、理解度の評価や技術習得の状況を量的に評価し、教育効果を統計的に明らかにすることである。さらに展望として、収集した学生からの量的なデータを基に、学生個々の理解度や技術の習得状況に応じた、個別指導など効果的な教育方法の改善に進めていく必要がある。学生主体の教育活動を推進し、基礎看護教育における教育の質の向上を高めることが求められる。</p>	